

日刊メタルレポート

発行所

株式会社 日刊金属新聞社

本社 大阪市城東区蒲生1-3-7
電話 (06) 6932-5443 代表

購読料 半年44,100円(前納) 3ヵ月22,050円

アルミ概ね輸出増、輸入減

橋本金属
アルミ橋本健一郎氏レポート②

【概況】六月前半は米格付け会社S&Pによるアメリカ国債の格上げ、四月の米小売売上高が〇・六%増と予測を上回った事、日本の一・三ヶ月期のGDPが上方修正などプラス材料はあったものの、五月の米雇用統計で失業率が七・六%と予測より悪かったこと、ADP雇用統計で雇用者数が一三・三万人とこちらも予測以下だったことから、LMEアルミ相場は一、八二三ドル(現物後場買い)と前月最終価格から約六・一ドル下落しての前半締めとなった。

後半は注目のFOMC後のバーナンキ議長発言で金融緩和縮小が近いとの認識や、五月のユーロ連合自動車販売台数が五・九%減と九三年以来の低水準だったことから、LMEアルミ相場は一時一、七二一ドルまで暴落するものの、ECBの金融緩和拡大発言や、イタリアの製造業PMIが二〇・一一年七月以来の高水準だったこと、六月のNY連銀景気指数がプラス七・八四%だったことを好感し下げ幅を圧縮、LMEアルミ(現物後場)一、七七二ドルと、前半締めから九三三ドル下落してのスタートとなった。

■前月の経済指標

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比六・二%減の七三万二、七一四台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比一五・八%減の二六万六、九一三台。

海外商品先物取引巡り規制緩和も

来年取引量が拡大の見通し 中国

中国当局は、企業と個人による海外での商品先物取引の規制緩和を検討している。状況に詳しい関係者が明らかにした。

複数の企業関係者によると、中国企業はすでに海外市場での取引を認められているが、規制緩和により来年取引量が拡大する見通し。

これにより、香港取引所の傘下にあるロンドン金属取引所(LME)など世界的取引所の取引が大幅に拡大し、一部の先物取引における中国企業の影響力が増す可能性がある。

中国は金属や農産物の主要消費国である一方、主要生産国でもある。香港部門を通じて海外取引を行っている例はあるものの、現時点で海外での先物取引が認められているのは国有企業三社のみ。

ある関係者によると、当局は、すべての企業と個人投資家に海外先物市場での取引を認めるか、一部の大手仲介業者に限定するかどうかを検討している。外貨流入の増加も予想されるため、規制当局による対応の可能性も検討しているという。

大阪亜鉛工業株式会社

住友金属 鉱山電気亜鉛
蒸溜亜鉛・原料指定問屋

亜鉛ドロス・洋買入

取締役社長 林 昭宏

〒五五五 大阪市西淀川区佃四丁目一四番三
〇〇一 電話 〇六 六四七二一五三 代表
〒一一一 東京都墨田区立花二丁目四番五
〇〇四一 電話 〇三三 三六一八一三五五 一

銅・下銅
真鍮ダイ粉
アルミ・ステンレス

現金買入れ

新賀金属

八尾市太田新町7丁目24

電話 072-949-9750

FAX 072-949-9462

アルミ圧延品の生産量はマイナス

二次合金生産量は小幅ながら増加

(二面より続く)

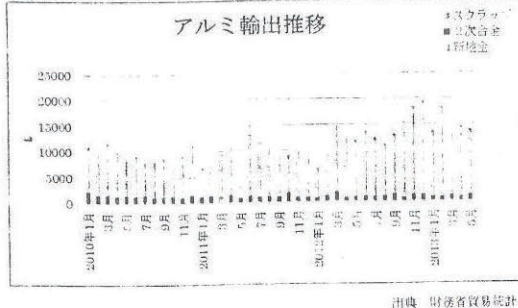
◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比一四・五％増の七万九、七五一戸であった。

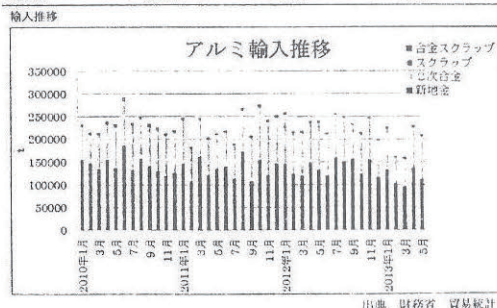
◆貿易関連指標

財務省貿易統計によれば輸出はアルミ新地金が前月比一・六％減の一二九七、二次合金が四四・八％増の一、〇三七七、スクラップが一五・五％増の一、二七、七八六ト。

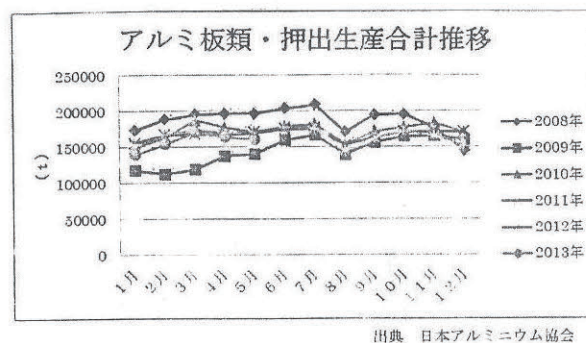
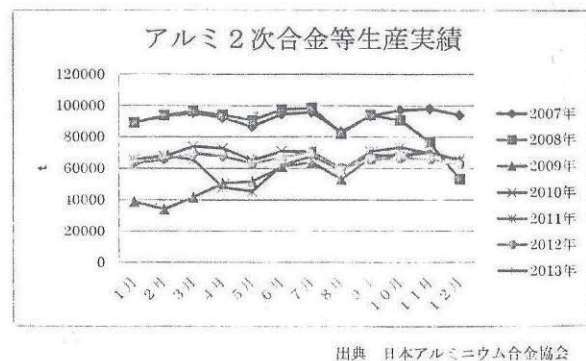
輸出	3月	4月	5月
新地金	249 t	63 t	129 t
前年比	+28%	-25%	-11.6%
二次合金	959 t	802 t	1037 t
前年比	-42.2%	+23.1%	+41.8%
スクラップ	13782 t	13660 t	12786 t
前年比	+7.2%	+20.2%	+15.5%



輸入	3月	4月	5月
新地金	9万5210 t	13万4998 t	11万1401 t
前年比	-20.6%	-8.8%	-15.5%
二次合金	6万568 t	9万0763 t	9万3692 t
前年比	-35.8%	+3.9%	-10.9%
スクラップ	730 t	820 t	716 t
前年比	-13.3%	+20.4%	+0.7%
合金スクラップ	3054 t	3805 t	3529 t
前年比	-20.1%	+1.4%	-4.1%



日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比〇・九％増の六万三、六一六トであった。(六面に続く)



【前月の国内指標】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比六・一％減の一六万〇、二〇五ト。

アルミ 内需は様子見の一服モードか

住宅堅調も自動車生産マイナス

〔二面より続く〕
【見通し】

六月は、中国の金融引き締め観測と米国金

融緩和縮小観測に一喜一憂した月となった。中国中央銀行による金融引き締めで短期市場の金利が七％から一四％まで上昇したことや、FOMC後のバーナンキ発言で金融緩和縮小が近いとの認識から。

自動車生産は前年比六・二％減の九カ月連続マイナス。国内向け、輸出向け生産が共にマイナスへ。

販売の方はついに二桁悪化前年比割れの一五・八％減。貨物車、乗用車が共にマイナスだったことから。

新設住宅着工戸数は先月に続き九カ月連続増加、前年比一四・五％増(季節調整済み前月比九・四％増)の七万九、七五一戸。今月も唯一堅調な住宅関連。分譲マンションがプラス三三・三％と大幅増。アベノミクスによる長期金利の上昇に伴う住宅ローン金利など今後の動向に注目。

自動車関連のアルミ二次合金生産は前年比〇・九％増と二カ月ぶりプラス。

円安継続の割安感から国内塊への回帰のためとの見解。

その他、圧延・押出品生産数は前年比六・一％減と悪化。

圧延に関して、缶材は五月のビール系飲料の出荷は三・八％増だったが、缶メーカーの在庫調整から六・一％減。自動車向けは五月の新車販売台数が六・九％減となったことによる受注減や、エコカー減税の反動から九・八％減。輸出向けは中国・アジアへの輸出減から一八・七％減だった。

輸出は新地金が前年比一一・六％減の一二九t、二次合金が四四・八％増の一、〇三七t、スクラップが一五・五％増の一、二七六t。

内需旺盛に伴い用途が多い新地金は減少。それ以外は二次合金も含め、大幅な円安を背景に輸出増との見解。

輸入は新地金が前年比一五・五％減の一、四〇一t、二次合金は一〇・九％減の九万三、六九二t、スクラップは〇・七％増の七、一六t、合金スクラップは四・一％減の三、五二九t。

前月に続き、新地金は携帯電話や電気関連の板・条需要の不振や円安からの割高感のため輸入塊は減少、二次合金・スクラップは内需の一服から減少との見解。

め輸入塊は減少、二次合金・スクラップは内需の一服から減少との見解。

【アルミ需給に関して】

住宅関連は新設住宅着工数が前年比一四・五％増と九カ月連続増加と堅調なものの、自動車は生産が依然九カ月連続で減少し、国内、輸出ともにマイナスとなった。

六月の国内販売台数も一五・八％減と大幅悪化。為替が再び九八・一〇〇円近辺で推移していることから輸出も期待できず、先行きに黄信号。

内需は様子見の一服モード。

【LME価格に関して】

前月に続き欧州、そして特に中国の経済指標に今月は左右される。

欧州に関してECBが尚、金融緩和に言及しており、一時的に金融危機が起こればすぐに緩和の方向で一致、相場は持ち直すとの予測から、上値は六月最高値付近の一、九〇〇ドル。

下値は中国当局やHSBCのPMI(製造業景況感指数)が前月共に景気判断の五〇を割ったことから警戒感が強く、仮に今月も五〇を割るようであれば暴落する可能性があるとの予測から直近安値付近の一、七〇〇ドル。

スクラップ価格については、LME価格が上記中国指標により悪化する可能性や国内需の一服から、五、一〇円程度の値下げがあるとの予測。

LME非鉄在庫 (7月4日発表分)

	入	庫	出	庫	7月3日 現在	増	減
銅	5,875	3,425	663,175	+	2,450		
	GAW	0	0	±	0		
	GAC	5,875	3,425	663,175	+	2,450	
す	ず	250	5	14,480	+	245	
鉛		575	750	197,575	-	175	
亜鉛	SHG	0	5,250	1,038,450	-	5,250	
アル	ミ	0	7,950	5,428,450	-	7,950	
ニ	次合金	0	0	68,100	±	0	
ニ	ッケル	0	78	190,512	-	78	
アルミ二次(NASAA)		1,360	1,380	108,200	-	20	

(単位: トン)